

2016年(平成28年)1月17日 日曜日

空き家見守り隊 NPOが結成式

秋田市内、24人活動



1人ずつ会員証が渡された結成式—秋田市広面

空き家の有効活用を目指し、秋田市で空き家情報の収集などに努める「住まい安心見守り隊」の結成式が16日、同市であった。

市内では昨年夏、建築士や司法書士らがNPO法人「住まい安心サポート秋田」を発足させ、空き家所有者と利用希望者の橋渡しや、高齢者住宅の見回りサービスなどを行っている。

見守り隊は、NPOの実動部隊に当たり、住民らがボランティアで空き家情報を集める。現在は24人が隊員を務める。

結成式では、NPOの佐々木義文理事長が「空き家は個人の問題だが、もはや地域全体の問題になっていく」と述べ、一人ひとりに会員証を手渡した。

隊員になった同市新屋の

公務員、原田攻さん(48)は「周りも空き家が増えていく。地域のために頑張りたい」と話す。

秋田市の目視調査(2012〜13年)によると、市内の空き家は約3千件。

NPOは火〜金曜日の午後1時半〜午後4時、空き家などの相談に応じている。問い合わせは事務局(0188-8388-4720)へ。

空き家見守ります

秋田のNPO 住民ボランティア始動

増加を続ける空き家の利活用を進めようと、物件の情報収集や空き家パトロールを行う住民ボランティア「住まい安心見守り隊」が秋田市で始動した。

空き家の売買や賃借の橋渡しを目指し、昨年7月に発足したNPO法人「住まい安心サポート秋田」が隊員を募集。建築士や行政書士をはじめとするNPO会

員のほか、募集に応じた会社員ら20〜70代の男女24人が隊員に名前を連ねた。隊員が通動や買い物途中で目にしたたり、職場や近所で聞いたりした話から、空き家の所在や入居希望者などの情報を集約。集会所やカルチャー教室の会場のよう

に地域コミュニティの拠点として活用できるように双方の橋渡しをする。

空き家の家主から依頼を受け、有料で見回るサービスも始めた。隊員も建物や庭の異常の有無を調べるほか、鍵を預かって空気の入れ替え作業などを担当する。

16日に同市で結成式があり、NPO法人の佐々木義文理事長は「空き家の増加は所有者だけの問題にとどまらない。地域全体の課題と捉え、大きな家族の1人のつもりで見守ってほしい」と呼び掛けた。



見守り隊の結成式で、佐々木理事長(右)が隊員に会員証を手渡した